

こども主体の個別の教育支援計画作成ガイド改訂に当たって

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校（以下、本校）では、平成26年度から3ヵ年「ひと・地域・未来をつなぐ」ことをテーマに研究を推進してきました。本研究3年次の平成28年度には、「変化する状況で自分のもてる力を発揮できる児童生徒を目指した授業づくり～本人主体の個別の支援計画の作成を通して～」と主題を設定し、こども主体の個別の教育（支援）計画の作成に着手した初年度となります。

その後、個別の教育支援計画の名称を「私の応援計画」へと変更し、平成29年度から2ヵ年「本人主体の個別の教育支援計画（私の応援計画）を活用した教育課程の編成」の主題の下、実践研究を推進してきました。その成果物の一つとして、「こども主体の個別の教育支援計画作成ガイド」の発行（平成30年3月）が挙げられます。

本校において、「私の応援計画」作成の過程で聞き取った「思い」や「願い」から、児童生徒の「教育的ニーズ」を把握し、個々の目標の達成を目指しながら、本人を主体とする教育課程を編成する風土があります。

一方で、現在本校において「私の応援計画」に係る研究に携わった職員は、数える程しかない状況にあります。「私の応援計画」作成に当たる趣旨や手続き、大切にする要点等を今後の学校運営に関わる職員に引き継いでいくことが急務と考えます。

また、「こども主体の個別の教育支援計画作成ガイド」発行から6年が経過し、「私の応援計画」に関わる様式やツールの変更・修正がなされてきています。

加えて、「私の応援計画」の事後研究で定義した「生涯学習力」との関係性も整理し、職員で共通理解し、今後の本人を主体とする教育課程の充実に資する必要があります。

以上のことから、今一度「私の応援計画」の作成に至った経緯や「私の応援計画」と「生涯学習力」との関係性、「私の応援計画」作成や活用の手続きや要点について言語化し、人が変わっても持続可能な体制構築の一助になればと思い、本作成ガイドの改訂に至りました。

こども主体の個別の教育支援計画作成ガイド改訂委員
令和7年3月

目次

こども主体の個別の教育支援計画作成ガイド

こども主体の個別の教育支援計画作成ガイド改訂に当たって

1 「私の応援計画」作成に至った経緯等

- (1) 個別の教育支援計画における現状（平成28年度時点）・・・ 1
- (2) 個別の教育支援計画から「私の応援計画」へ・・・ 2
- (3) 児童生徒に期待される効果（プランニング能力の育成）・・・ 3

2 「私の応援計画」作成の手順（手続き）及び活用

- (1) 「私の応援計画」全体像・・・ 4
- (2) 「私の応援計画」作成の手順・・・ 5
- (3) 「私の応援計画」作成のポイント・・・ 6
- (4) 「私の応援計画」の活用～関係機関との連携～・・・ 15
- (5) 「私の応援計画」の活用～授業づくりとキャリアパス・ポート～ 17

3 「私の応援計画」と「わかはとモデル」

- (1) 「生涯学習力」について・・・ 18
- (2) 「わかはとモデル」について・・・ 19
- (3) 「私の応援計画」と「わかはとシステム」について・・・ 20

おわりに



1 「私の応援計画」作成に至った経緯等

(1) 個別の教育支援計画における現状（平成28年度時点）

個別の教育支援計画については、2002年12月に公表された「障害者基本計画」をうけて、2003年の「今後の特別支援教育の在り方について(最終報告)」において「障害のある児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していく」という考えのもと、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うことを目的に個別の教育支援計画を作成する必要性が提起された。そして、2009年に告示された特別支援学校の幼稚部教育要領及び小学部・中学部並びに高等部学習指導要領において、家庭及び地域や医療、福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で幼児児童生徒への教育的支援を行うために個別の教育支援計画を作成することが義務付けられた。

その後、2020年度から2022年度に順次予定されている小学校、中学校及び高等学校の学習指導要領の改訂において、特別支援学級や通級による指導の対象となる児童生徒について計画の作成が義務付けられるなど、より一層の充実が求められている。

このように個別の教育支援計画の重要性が提唱される一方で、藤井(2016)が個別の教育支援計画の作成と活用に関する調査から、有効に活用されていない現状を報告するなど、課題も多く指摘されている。

以上のことから、個別の教育支援計画を有効に活用するための方策について提案する。



↑ 藤井(2016)個別の教育支援計画の作成と活用に関する調査で聞かれた職員の声

(2) 個別の教育支援計画から「私の応援計画」へ

渡辺(2013)は、未来(時間的広がり)について、「子どもたちの未来に直接焦点を当てるのではなく、『今の経験の充実』が未来の土台になるという意味で、『未来につなぐ』ことが大切である」、「『今取り組んでいることの意味』を子どもたちが分かるように伝えることによって、子ども自身も『過去と今、今と未来』をつなぐことができるようになる」と長期的な視点に立った「今の支援の充実」について述べている。

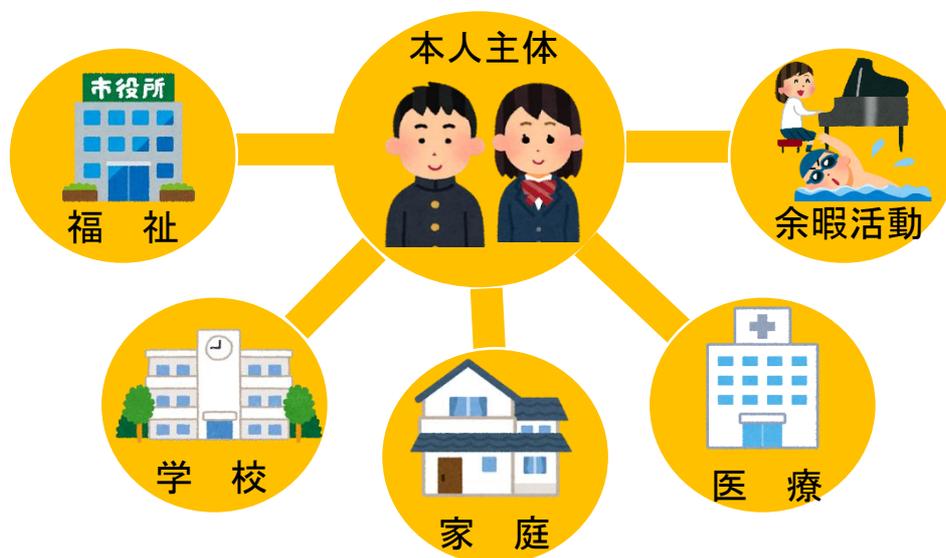
このことをふまえ、中央教育審議会(2016)の答申で述べられている「他機関との連携を図るための長期的な視点に立った計画」、スティーブ・ホルバーン(2005)らによるパーソン・センタード・プランニングの考え方である「本人を中心に据えた計画づくりの重要性」の提起、藤井(2016)の「当事者主体の計画の重要性」の提起を参考に、本校の個別の教育支援計画について次のように捉え直した。

本校における個別の教育支援計画の捉え

「いま」の支援を子どもの長期的な成長発達過程の中にどのように位置付けるかを、本人も含めた関係者で共通理解するための計画

このような、「本人を含めた関係者で共通理解するための計画」の考え方をもとに、個別の教育支援計画を活用していくためには、「本人と保護者が当事者意識をもって作成することが重要ではないかと考えた。

そこで、本校では、これまでの学校が作成して本人・保護者が追認するような個別の教育支援計画の作成プロセスを改め、本人と保護者が主体となって作成し、関係者と連携した支援に積極的に活用できるような計画を目指し、名称を「私の応援計画」とした。



(3) 児童生徒に期待される効果（プランニング能力の育成）

國分ら(2013)は、プランニング能力について、「新しい場面や出来事に対して、将来の時間の中で到達する目標とそれを達成するための行動を選択・実行する能力」と捉え、プランニングは様々な認知機能に支えられ、複雑な認知操作を伴う場合が多いため、知的障害児・者に困難が生じやすいことを指摘している。

その上で、「プランニングの働きによって、生活場面や仕事において、見通しをもった行動や、効率的に目標を達成することが可能となる」、「知的障害児・者のプランニング活動を支援する方法として、認知的負担を軽減させるためにプランすべき状況を整理することが望まれる」など、知的障害児・者のプランニング能力を高めることの重要性や、そのための支援ツールの必要性について指摘している。

「私の応援計画」は、「夢や願い」、「目標」を教師や保護者との対話の中で見だし、「よさや長所」に着目して本人が主体となって作成する計画である。本人が自分の将来にわたる「夢や願い」をイメージしながら、それと今の自分を重ね合わせて課題等を理解し、その解決に向けた方策を選択・実行できるような支援ツールとして活用する。

このように、「私の応援計画」を本人が中心となって加除修正しながら作成を繰り返し、自分のことについて考えを深めていくことで、「『なりたい自分を目指して何をすべきか』行動を主体的に選択・実行していく力」、すなわちプランニング能力を高めるための基礎となる力が育まれると考える。



「なりたい自分」に近付くためには、
どんなことをがんばればいいのか？

2 「私の応援計画」作成の手順（手続き）及び活用

(1) 「私の応援計画」全体像

「私の応援計画」の作成や活用は、児童生徒が「私の応援計画」の必要性を知ることから始まり、教師との対話を通して思いや願いを表出し、文字や可視化ツールを用いて思いや願いを見える形にする。それらを基に、「私の応援計画」を本人・保護者と確認しながら作成し、日頃の授業づくり、職場体験や現場実習、交流学习、そして移行支援に活用する。

これらの面談での聞き取り（思いや願いの表出）から作成、活用までの一連の流れは、次のとおりである。

本人主体を目指した個別の教育支援計画 「私の応援計画」

* 高等部私の応援計画
オリエンテーション
スライドORコード



思いや願いの表出

「私の応援計画」の作成

① 私の応援計画の必要性を知る

4月実施

私の応援計画について

- 私の応援計画ってなに？
- 作ってみよう私の応援計画

* 高等部 私の応援計画作成
オリエンテーションスライドより



中学部 ゆめシートを作る
先輩のゆめシート紹介より



② 対話をする

4月、9月、2月実施



小学部 私の応援計画に関わる面談の様子より

「私の応援計画」の活用

思いや願いを基点とした授業づくり



レッツゴーあおば
校外学習より

現場実習で生徒が自分で目標を伝える



高等部 現場実習より

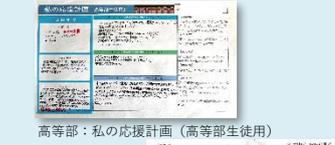
子ども園や附属校園との交流学习の際の情報交換資料

交換情報			
学年	個人	学年	個人
名前	学年	学年	個人

③ 思いや願いを可視化する

4月、9月、2月実施

高等部：私の応援計画（高等部生使用）



中学部：ゆめシート



小学部：思いいっぱいシート



日頃から意識できるように作成したシートは、教室に常時掲示

移行支援の取組（追指導の充実）

＜本人から＞

- * 84.11.9 保育園を訪問
- ・ 掃除や給食の配膳手伝い、園児の散歩の付き添いなどを行っている。
- ・ 得意な仕事は、掃除と遊んでいる。
- ・ 今後の目標としては、これまで以上に「園児や職員と仲良くすること」を目標に頑張ることと話していた。

本人の願い	私の目標
<ul style="list-style-type: none"> ＜「働く」の観点から＞ ・ 仕事の内容ややり方を覚える。 ・ 友だちを見せたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい仕事を任せられるような職員になる。 ・ 水泳を続けて、体力を維持する。
仕事の様子と本人との面談より	
<p>＜本人から＞</p> <ul style="list-style-type: none"> * 84.11.9 保育園を訪問 ・ 掃除や給食の配膳手伝い、園児の散歩の付き添いなどを行っている。 ・ 得意な仕事は、掃除と遊んでいる。 ・ 今後の目標としては、これまで以上に「園児や職員と仲良くすること」を目標に頑張ることと話していた。 	

4

(2) 「私の応援計画」作成の手順

「私の応援計画」の様式と作成の手順（手続き）は、次のとおりである。

「私の応援計画」の様式

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校

若 嶋 花 子

私 の 応 援 計 画

氏名 (自署)	若はと 花子		保護者名 (自署)	若嶋 雄平
学部 学年	中学部 1年	生年月日	平成〇年〇月〇日	

将来の生活・現在の生活に関する願い

本人の願い 【学校】買物学習や調理を頑張りたい。作業で物作りをしたい。 【家庭】買物や、お手伝い（洗濯物畳み、テーブル拭き）を頑張りたい。 【高等部】陶芸班でコップを作りたい。 【将来】パン屋さんになりたい。	保護者・家族の願い ・大人の支援が少ない中でも、自分自身で活動できるように頑張ってほしい。 ・きまりやマナー、言葉遣いなどを含めた相手との好ましい関わり方を身につけてほしい。 ・様々な集団での関わりや、同年代の友達との交流が増えてほしい。
---	---

私の目標

【学校】買物学習で計算を頑張る。友達や先生の話を最後まで聞く。
【家庭】洗濯物を畳む。

必要な支援

ア 見通しをもって活動に向かうための支援
イ 好ましい言葉遣いや振る舞いを身に付けるための支援

私を応援してくれる関係機関（支援方法、合理的配慮）

【家庭】 ア 自分でできるように見守ったり、自分で行うような機会を意図的に設けたりする。 イ 場面に合わせた言葉遣いについて繰り返し伝える。	【学校】 ア 写真や図を使って分かりやすく伝える。 イ 場面を捉えて視覚的に示したり、ロールプレイングの機会を設けたりする。	【医療・健康】 秋田県立医療療育センター PT OT ST	【余暇・地域生活】 わかほと水泳クラブ(上) ・言葉での指示だけでなく、実際に泳法の手本を見せる。 高道教室さくら(本) 秋田学習教室(火)	【福祉・その他】 ○放課後デイサービスはとのこ(月、水、木)ホドノルーム(火、金) ○秋田市障がい福祉課療育手帳の更新手続き ○相談支援事業所秋田県医療療育センター
---	---	--	---	--

評 価 【学校・関係機関】

翌日のスケジュールや持ち物をメモし、家庭で家族と確認することで、見通しをもって学習に臨めるようになった。言葉遣いは家庭と学校で連携して指導を続けていく。

本書は本校児童生徒への支援を目的として、関係機関で情報を共有するためのものです。
本人、保護者と学校が合意して作成したものです。

令和〇年〇月〇日 校長 保戸野 太郎 担任 (自署)

本人・保護者の署名

本人の願い

保護者の願い

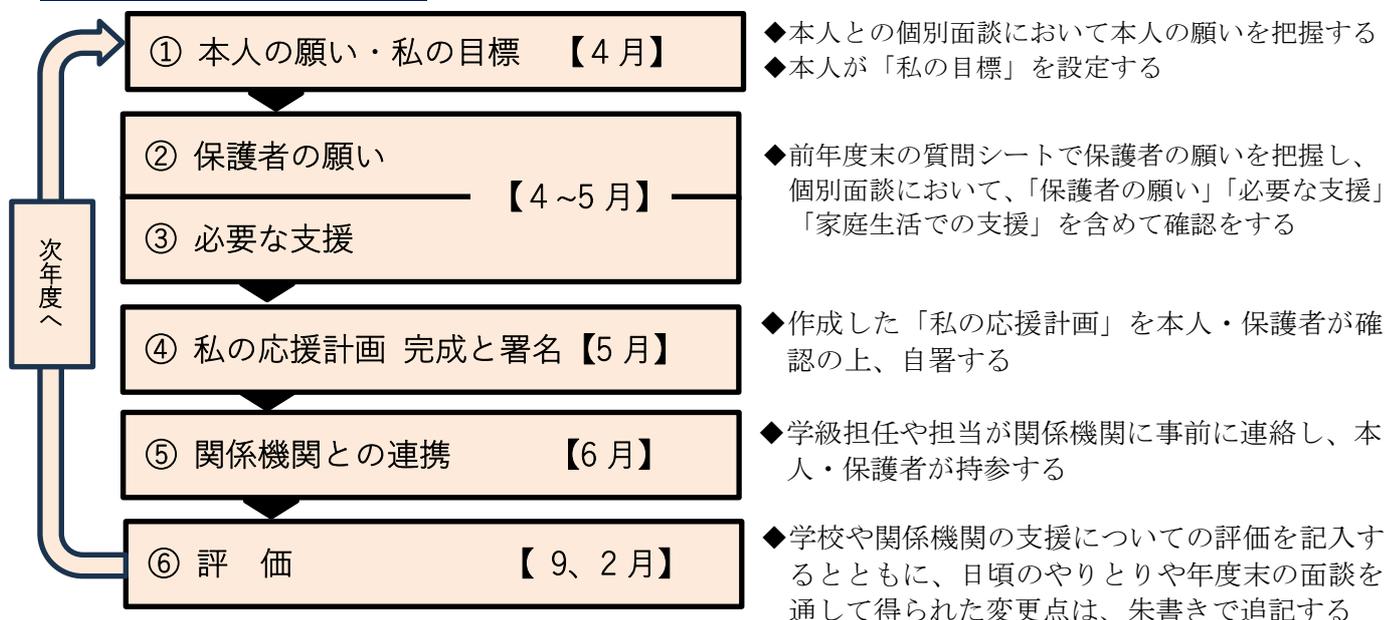
私の目標

必要な支援

関係機関と支援方法

評価

作成の手順（手続き）



(3) 「私の応援計画」作成のポイント

◆教師の基本姿勢

教師と児童生徒が面談（対話）する際には、「なぜ、私の応援計画を作るのか」を確認し、児童生徒が必要性感じ取りながら、思いや願いを表出していくことが大切になる。

思いや願いを聞き取る際には、「働く」「暮らす」「楽しむ」などの視点に分けて対話したり、保護者から提出してもらった質問シートの項目を参考に多角的な内容で話題にしたりする。

また、本人主体を趣旨とした際に大事にしたいことは、教師の考えの押し付けとならないよう「いかに児童生徒が自分の考えを広げたり、深めたり、具体化したりしていくか」ということにある。教師との対話を通して自分で考えて作成することで、「私の応援計画」が自分自身の計画になると考える。

対話をする際の環境づくりにも留意する必要があるし、児童生徒が話しやすい雰囲気や話に集中しやすい環境を整えて実施することが求められる。

児童生徒が対話を通して考えを深めるための問い掛けの例を次に示す。

例1) 抽象的な考えを具体化する

コミュニケーションをがんばります

コミュニケーションって
どういうことかな？
(抽象的なことは具体的に考えられるように問い掛けよう)

人と仲良くすることです

そのために
気を付けたいことは？
(自分の目標を考えられるように問い掛けよう)

自分から挨拶をします

現場実習のときはどうする？
(実際の学習場面をイメージできるように問い掛けよう)

例2) ある場面について多角的に問うことで気づきを得る

① 状況を問う

どんな場面だったの？誰がいたの？

② 心情を問う

そのとき、どのように思ったの？

③ 原因や理由（背景）を問う

なぜ、そのようになったと思う？

④ 展望（希望）を問う

これから、どうしていきたいの？

◆児童生徒の得意な表出方法に寄り添う

言葉でのやりとりが苦手な児童生徒に対しては、イラスト等による選択肢を提示したり、タブレット型端末での画像を活用したり、保護者面談や質問シートの内容、前年度の「私の応援計画」に関わる情報等を参考にしたりしながら、児童生徒の気持ちや得意な表出方法に寄り添った面談を行う。

児童生徒の得意な表出方法に寄り添った面談の例を次に示す。

例1) イラスト付きのシートを見ながら指差したり、選択したりして対話する。



児童の好きなことなどを基に「わかはとモデル」(P19)に沿ってカテゴリー化したイラストのシートを用いて対話する。

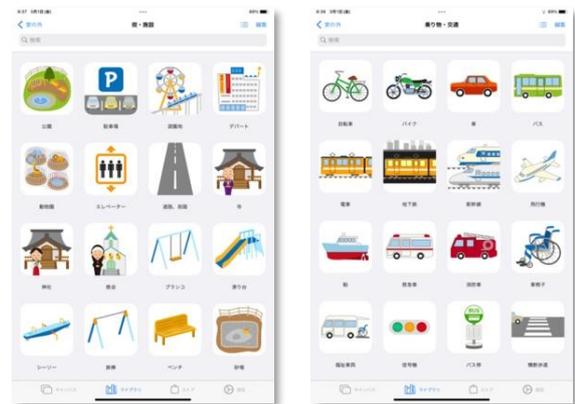
「働く」「暮らす」「楽しむ」の視点でカテゴリー化したイラストのシートを用いて対話する。

例2) タブレット型端末の中の思い出写真を見ながら（自分で選びながら）対話する。



タブレット型端末に学習の写真を入れておき、「どの写真が好きですか？」などの問い掛け後に児童が自分で操作する。「〇〇の活動が楽しかったね」などと児童の行動を見取りながら、意味付けするやりとりを複数回繰り返す。

例3) タブレット型端末のアプリを用いて対話する。



タブレット型端末のアプリ DropTalk (ドロップトーク) を用いて、教師が「行きたい場所は？」と質問した際に児童生徒が指差したり、タップしたりしながら選択をする。また、返答について、「何に乗って行きたいの？」と問い掛けるなど、場所、事柄、手段、相手などを一つの希望から掘り下げて対話する。

◆児童生徒の思いや願いを可視化する

教師との対話を通して自分で考えて作成する「私の応援計画」には、児童生徒が自分の思いや願い、考えを深めたり、具体的に考えたりできるような本人用のシートがある。このシートは、教室に常時掲示することで、自分の願いや目標を再度認識したり、友達の夢や願いを知ったりすることができるメリットもある。詳細を次項に記す。

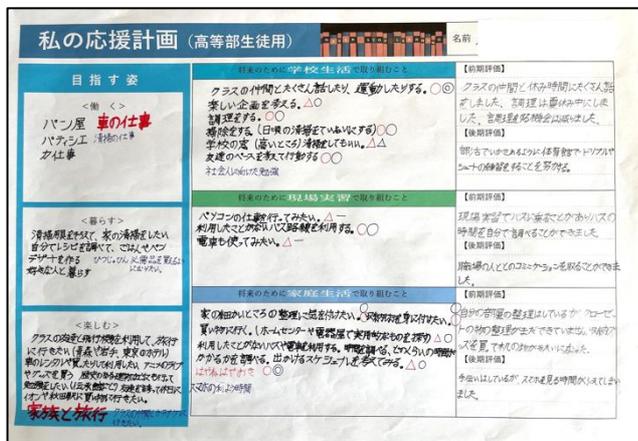


図1：高等部「私の応援計画（高等部生徒用）」

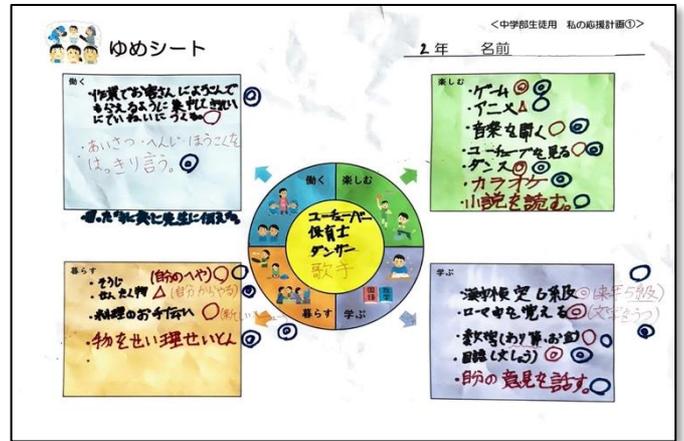


図2：中学部「私の応援計画①～ゆめシート～」

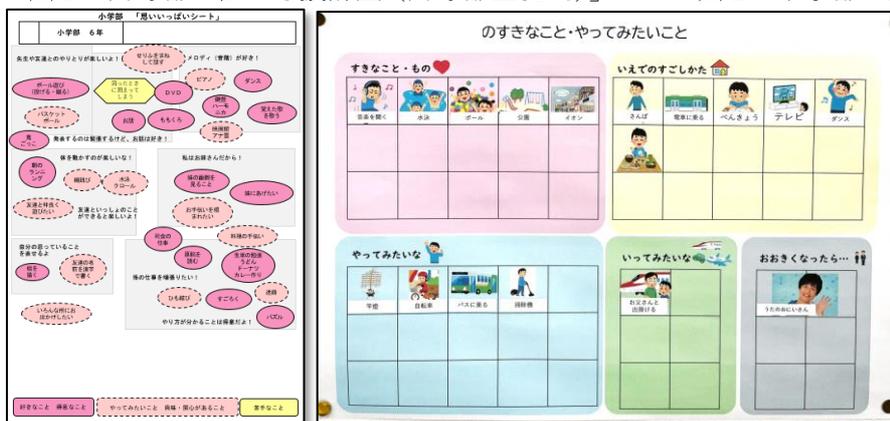


図3：小学部「思いつきシート、好きなこと・やってみたいことシート」



シートは教室後方に常時掲示

小学部 児童の思いを形に

本校小学部の児童は、様々な「願い」があるが、自分の「願い」を言葉で伝えることが難しい児童が多い。そこで、児童の「願い」を導き出すために、児童の好きなことや得意なこと、興味・関心が芽生えてきたことややってみいたいこと、苦手なことの主に3点から児童の「思い」をくみ取り「思いいっぱいシート」(図4)を作成している。

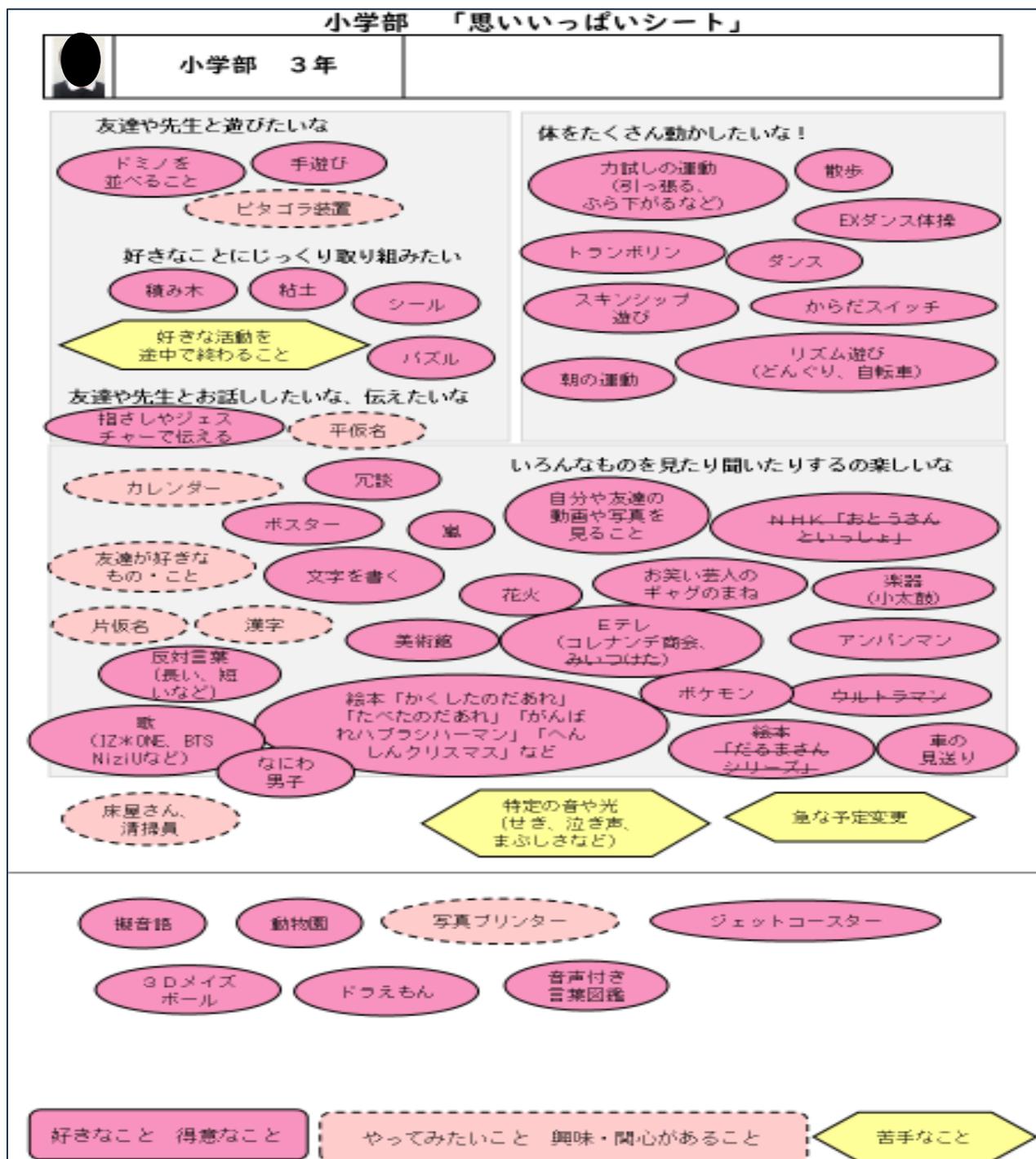


図4：「思いいっぱいシート」

*くみ取った「思い」から「願い（～したいな）」を推察し、カテゴリー分けをする。新たにくみ取った「思い」は、シート下部に記し、年度末に上部の「願い」で分類する。

～作成と活用に当たって～

「思いいっぱいシート」には、日頃の学習場面での表出や、教師や友達との関わりの中で見られた児童の「思い」があふれた場面、興味・関心が出てきた場面から、児童の「思い」を推測したり、受け取ったりしながら作成する。また、保護者との日々の連絡帳でのやりとりや面談等の際に「最近興味をもっている人や物、事」を話題に情報提供を受け、情報を追記していく。児童の「思い」を保護者と教師の双方で蓄積していくことで、児童が興味をもち始めたことを共有することができ、児童の行動から「〇〇が好きなのかな」「〇〇をしたんだね」などと、今まで以上に児童の「願い」をくみ取って関わられるようになっていく。また、児童の好きなことや得意なことなどを見付けるために、教師が児童のことをより深く知ろうと思って接したり、保護者がより様々な視点で子どもを見たりすることにつながると考える。



一方で、「思いいっぱいシート」は、文字で記しているために児童全員が自分の「思い」や「願い」を再認識したり、友達のことを知ったりすることは難しい。そこで、「思いいっぱいシート」を基に、「好きなこと・やってみたいことシート」（図5）を作成し、教室に掲示したり、面談の際に児童が確認しながら話したりできるようにした。本シートは、イラストと文字を用いて作成したシートである。

このシートを用いながら面談をすることで、児童は自分の好きな物などを伝えやすくなったり、教室掲示をすることで、友達の好きなことややってみたいことを知ったりする機会につながると考える。

また、くみ取った「思い」や「願い」については、学部の会議等で紹介することで、日頃の支援や授業づくりに役立てていけると考える。紹介をする際には、児童の様子についての解釈を説明することで、教師A：「B児は今年度に入り〇〇に興味をもち始めました。」教師C：「なるほど、それは、もしかすると昨年度『〇〇を作ろう』の学習に取り組んだからじゃないかな？」などと、児童の「思い」の背景を共有したり、深めたりできると考える。

図5：「好きなこと・やってみたいことシート」



学部での紹介の様子

中学部 になりたい自分を目指して

中学部では、「自分はどうなりたいのか」「何をしたいのか」「そのために何をすればいいのか」といった将来の自分の姿「になりたい自分」を少しずつ意識することが重要と考える。

そこで、生徒が「になりたい自分」（「夢」や「目標」）を意識し、そのためにどんな力が必要なのか、どんなことに取り組みばよいかを段階的に考えることができるように、「私の応援計画」を細分化し、「私の応援計画①～ゆめシート～」（図7）と「私の応援計画②～私のやってみたいこと・がんばること～」（図8）を作成している。

～作成と活用に当たって～

Plan（4～5月）

- ・オリエンテーションで「になりたい自分」や「夢」、「目標」を意識することの大切さを確認する。
- ・面談や「ゆめシート」の記入を通して、「になりたい自分」に近づくために「働く」「暮らす」「楽しむ」「学ぶ」の視点に分けて日頃がんばりたいことを考える機会を設定する。また、「働く」「暮らす」「楽しむ」「学ぶ」の視点で考えた目標等について、生活の中で取り組む場面などを「私のやってみたいこと・がんばることシート」に記入する機会を設定する。
- ・教室内にシートを掲示し、日頃から意識して生活できるようにする。

Do（5～9月）（10～2月）

- ・生徒一人一人の「思い」や「願い」を基にして、適切な学習内容を導き出して授業づくりを実践する。

Check・Action（10月）（2～3月）

- ・中間評価の生徒面談を通して、目標や「がんばること」の実施・達成状況を教師と一緒に評価できる機会を設定する。
- ・目標や「がんばること」の再確認と評価をし、より具体的な内容への変更が可能なものは加筆し、達成できた目標等についてはステップアップした目標等へ修正する。
- ・年度始めの本人の「願い」に変更がないか確認する。また、変更がある場合には、それによって「ゆめシート」や「私のやってみたいこと・がんばることシート」の変更の有無も確認する。必要に応じて、Planを再度行う。
- ・本人、保護者の「願い」や教師の願い（図6：教育的ニーズの定義）も踏まえ、自立や社会参加に必要とされることを意識していけるように生徒に伝える。

本校では、本人主体の「私の応援計画」を共通のツールとして、本人と保護者の願いを尊重した教育を行うことを目指しています。そのためには、児童生徒一人一人の「教育的ニーズ」を把握することが最も重要であると考え、2017年に以下のように定義しました。

本校における教育的ニーズの捉え（2017）

- ・現在から未来にわたる豊かな生活を実現するために、児童生徒自身が学校教育に求めていること
- ・今、将来に必要とされる事柄で、子ども本人の願い、保護者の願い、教師の願い・ねらい、社会の要請等を総合的に勘案した結果として導き出したもの

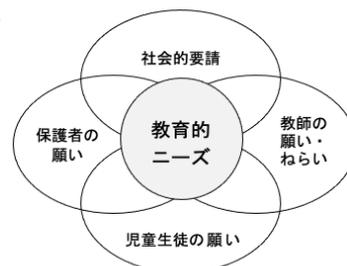


図6：教育的ニーズの定義

＜中学生生徒用 私の応援計画①＞

年 名前 _____

Plan①
中心の丸に将来の自分の姿「なりたい自分」や夢を記入する。

Plan②
視点に沿って日頃がんばることを記入する。

Check・Action②
自己評価後に具体化やステップアップした目標を記入する。

Check・Action①
がんばることの評価【◎、○、△】を赤（前期）青（後期）で記入する。

Check・Action③
前期の自己評価後に具体化した内容は赤（前期）、青（後期）で記入する。

図 7：「私の応援計画①～ゆめシート～」

＜中学生生徒用 私の応援計画②＞

名前 _____

Plan③
ゆめシートの中心に記入した「なりたい自分」や夢を記入する。

Check・Action③
後期の自己評価で達成状況を評価（文字化）する。

Plan④
ゆめシートに記入した日頃がんばることを「学校」「家庭」「高等部」に分けて記入する。

図 8：「私の応援計画②～私のやってみみたいこと・がんばること～」

高等部 将来のために、「今」できることを見つめて

高等部では、自分の将来の姿をイメージし、そのために今何ができるかを考え、目的意識をもちながら学んだり、生活したりする力が必要と考える。そこで、生徒が「がんばること」や「やってみたいこと」を自分で考えて「私の応援計画（高等部生徒用）」（図9）を作成し、定期的な面談を通して目標を振り返り、次の学習や生活に向けて反映していけるようにしている。

～作成と活用に当たって～

Plan（4～5月）

①オリエンテーション

プレゼンテーションによる事前学習（P4、QRコード参照）を通して、自分の目標達成のために具体的に行動していくことの大切さを確認する。

②「私の応援計画（高等部生徒用）」シートへの記入

「働く」「暮らす」「楽しむ」の区分で「目指す姿」を自分で考える時間を設ける。

「目指す姿」を基に、「学校生活」「現場実習」「家庭生活」の場面において取り組むことを考える時間を設ける。

*②に関しては、一人で考えることが難しい生徒の場合は、教師が必要な事柄を問い掛けたり、イラストや画像を用いて選択したりしながら考える時間を設ける。

③生徒との面談

生徒と面談の機会を設定し、「目指す姿」や「取り組むこと」について、対話を通して内容を具体化したり、考えを引き出したりする。

④保護者との面談

生徒が考えたシートの事柄や面談の内容を基に作成した「私の応援計画」の原案について、保護者と「本人の願い」「保護者の願い」「目標」について確認し、「必要な支援」や「支援の方向性」等を話し合う。

Do（5月～）

①現場実習での取組（6月頃、10月頃）

現場実習の事前挨拶の際に、実習先に生徒の「思い」や「願い」、「コミュニケーションや思考の実態等」が伝わるように、将来の夢や現場実習で頑張りたいことなどを生徒自身（一人で話すことが難しい場合には、教師と一緒に）が話す機会を設ける。また、「私の応援計画」を基に、実習先が気付いた点や質問したいことを生徒に伝え、それに答える場を設ける。

②授業実践

「私の応援計画」を基に、一人一人の教育的ニーズ（図6参照）を導き出し、年間指導計画の作成に向けた話し合い（チームミーティング）を行うなど、授業づくりに活用する。

Check・Action（10月）（2～3月）

①前期（後期）を振り返っての確認

「私の応援計画」の目標が達成状況を生徒自身で評価する場を設ける。

*①に関しては、一人で考えることが難しい生徒の場合は、教師が必要な事柄を問い掛けたり、イラストや画像、学習の様子動画等を用いて選択したりしながら考える時間を設ける。

②生徒との個別面談の実施

目標が達成できたときには、その要因や背景を問い掛け、目標に対する行動の振り返りを深められるようにする。また、達成できなかったときは、「なぜ、達成できなかったのか」、「どのようにすれば達成できるようになったか」など、状況を振り返られるよ

う問い掛ける。

目標達成している場合には、ステップアップした目標や新たな目標を考える場を設ける。

③「私の応援計画（高等部生徒用）」シートへの記入

「目指す姿」や「取り組むこと」など、面談を通して確認した新たな目標を記入する。

④保護者と面談を実施

「私の応援計画（高等部生徒用）」を基に、生徒と話し合った内容や記載事項について保護者と確認し、必要があれば検討する。

「私の応援計画」を基に、実践に対する評価を確認し、必要に応じて「必要な支援」や「支援の方向性」を検討する。

私の応援計画（高等部生徒用）		名前
目指す姿	将来のために学校生活で取り組むこと	【前期評価】
働く パン屋 車の仕事 パティシエ 清掃の仕事 カ仕事	クラスの仲間とたくさん話したり、運動したりする。◎◎ 楽しい企画を考える。△○ 調理をする。○○ 掃除をする。○ 学校の窓（） 友達への声援 社会人に向けた勉強	クラスの仲間と話す時間や休みの時間 をうまく活用したい。 【後期評価】
暮らす 清掃用具を買って、家の清掃をしたい 自分でレシピを調べて、ごはんやパン デザートを作る ひづり、ひん、必需品を買い 好きな人と暮らす	将来のために現場実習で取り組むこと	【前期評価】
	パソコンの仕事を行ってみたい。△- 利用したことがないバス路線を利用する。○○ 電車も使ってみよう。△-	現場実習 時間を 【後期評価】
楽しむ クラスの友達と飛行機を利用して旅行 に行きたい（青森や岩手、東京のオテル） 車のレンタルや買ったり利用したい。アメのバイク やグッズを買う。歴史のある建物や古道具を 集めたい。川や海で泳ぎたい。友達と旅行、休日に イオンや秋田駅に買い物に行きたい。 家族と旅行	将来のために家族生活で取り組むこと	【前期評価】
	家の細かいところの整理に気をつけたい。収納棚を身に付けたい。 買い物に行く。（ホームセンターや電器屋で実用的なものを探り 利用したことがないバスや電車を利用する。勉強の計画、その日の時間 かかるかを調べる。出かけるスケジュールを考えてみる。△○ はげおはげおま ○◎	自分の部屋の整理はしているか？クローゼ ットの物の整理がまだできていません。収納 グッズを買って机の物がきれいになった。 【後期評価】
	家庭生活で取り組むこと	手伝いはしているか？ ストホを見る時間が減りました。

図9：「私の応援計画（高等部生徒用）」

目指す姿
「働く」「暮らす」「楽しむ」の
区分で記入する。
評価を基に、変更した目指す姿
は、【前期評価】赤色、
【後期評価】青色で追記する。

評価
【前期評価】10月
【後期評価】2～3月に
記入する。

(4) 「私の応援計画」の活用～関係機関との連携～

関係機関と連携を図るためのツールとして、次のように活用する。

◆交流及び共同学習

本校では、大学附属の幼稚園と小学部や高等部、小学校と小学部、中学校と中学部が交流学習を行っている。また、近隣のこども園との交流も数年来継続的に行っている。この交流学習を実施するに当たっては、「私の応援計画」から抜粋した必要な支援等を記載した情報交換資料（図10）を作成し、事前の打合せで使用している。作成に当たっては、相手側に無理のないように、「初対面でもできる配慮」を心掛けて記載する。

このように事前の情報交換を行うことで、例えば小学校が企画する交流活動では、本校の児童が好きなことや得意なことを踏まえた内容の学習や交流活動になるよう、小学校の児童が考えを出し合って計画し、実践するなど、相手のことを意識しながら実施される交流となり、充実した内容となる。

交流学習における情報交換資料	
秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 〇〇〇〇 名	
氏名	好きなこと、得意なことや 配慮していただきたいこと
	いつも笑顔で、誰とでも優しく関わることができます。依頼されたことに最後まで取り組むことができます。言語がやや不明瞭ですが、「もう1回お願い」「ゆっくりお願い」と伝えると、聞き取りやすくなることが多いです。
	何でも挑戦しよう、やりたいという向上心があります。最後まで話を聞かずに活動してしまうことがありますが、人と関わるのが大好きです。簡潔に指示をすると活動ができます。
	友達のみねをしったり、一緒に活動したりすることが好きです。自分の世界に入り込んでしまい、独り言を話すことがあります。簡潔に指示をすると活動することができます。



事前に情報交換をすることで、質の高い交流や相手を思いやった関わりが可能になる。

図10：情報交換資料（例）

◆現場実習（高等部）

現場実習の事前挨拶で、生徒本人が「私の応援計画」を持参し、担当者に願いや目標を伝える。「私の応援計画」が自分のための計画で生徒について実習先に知っていただく機会にも；



現場実習での活用



◆移行支援

個別移行支援計画（図 11）の作成において、「私の応援計画」から抜粋した「本人の思い」「将来の生活についての希望」「必要と思われる支援内容」「具体的支援」を本人・保護者と教師が検討・確認した上で、働く視点からの「私の目標」を本人・保護者が立案する。最終的には、事業所と三者（本人、保護者、事業所）で確認し、合意の上で記載する。また、年に1回（必要に応じて複数回）本人、事業所との面談を行い、評価や支援の方向性の確認を行う。本人、保護者の安心感を高め、事業所側の理解を深め、事業所の本人への継続的な支援につなげていく。

個別移行支援計画			
本人のプロフィール		記入者（ ）	
氏名	生年月日	男	女
住所	〒	連絡先	
保護者	住所	連絡先	
出身校	担当	連絡先	
将来の生活についての希望			
・お客様の気持ちを考慮して荷物を届けたい。 ・家族と旅行したり、貯金したりしたい。			
必要と思われる支援内容			
・仕事内容を正しく理解して実行できているかの見届け ・生活上の不安解消のために関係機関とつながるための支援 ・職場で良好な人間関係を継続するための支援			
具体的支援			
家庭生活	担当者：保護者 内容：生活や仕事の様子を把握し、必要がある場合は関係機関への相談を行う。健康の保持や体力の増進に努める。家事を手伝う機会を設け、生活力の向上を図る。	連絡先：	
進路先の生活	担当者： 連絡先： 内容：仕事の全般的な支援・指導を行う。家庭への情報提供や課題解決に向けた相談支援を行う。必要に応じて、関係機関と連携して課題解決を図る。		
医療・健康	担当者：●●病院 内容：	連絡先：	
余暇・地域生活	担当者： 連絡先： 内容：		
出身校の役割	担当者：附属特別支援学校 内容：本人や保護者、関係機関と連絡を取り、定期的な追指導を行う。本人の労働状況や生活状況を把握し、必要に応じて相談会議を設定する。同窓会行事への参加案内を行う。	連絡先：	

◎卒業後1年目	
「本人の願い」	「私の目標」
<「働く」の視点から> ・一日も休まずに働きたい。	・仕事で体力を付ける。 ・お金を貯めて好きな物を買う。
仕事の様子と本人との面談より	
<本人から>*R●●●●株式会社を訪問 ・仕事は休まずに勤務している。荷物の仕分けを担当している。仕事をする上では、仕分けをする荷物の種類を間違えないようにすることや周囲と自分の安全に気を付けて仕事することを心掛けている。 ・基本的に自転車通っている。荒天時はバスを利用している。日曜日勤務のときは、バスの時間が合わなため、家の人に送迎してもらっている。 ・仕事帰りに一人で食事をする店が増えた。この後も、少しずつ一人で利用を増やしていきたい。 ・学生時代に特に行っていた空港には最近行ってない。休日は、家でゆっくり休んでいる。 ・竿燈祭りには、自分から家族を誘って訪れた。 <担当者から>*▲▲さん、▲▲さんより ・仕事は、ペースアップしている。職力となっている同じ部署の方(▲▲さん)とも師弟関係を築いている。日曜日も勤務しており、週5日働いている。 ・言葉遣いの面で課題(敬語の使い方)があるが、周囲の方は理解している。また、アルバイトが入ることもあり、その方にも説明している。 ・担当の▲▲さんは本人が希望すれば、今後は他の仕事内容も担当できればと考えている。 ・通勤や仕事の開始など、厳守している。	

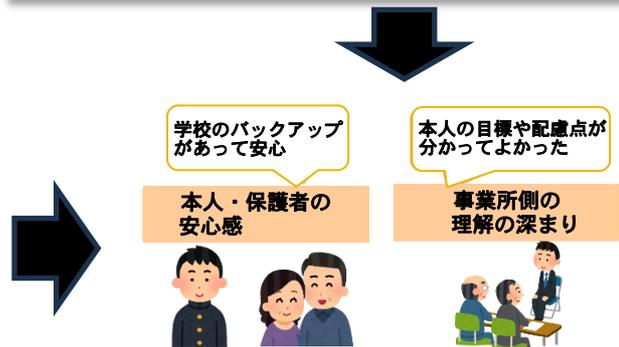


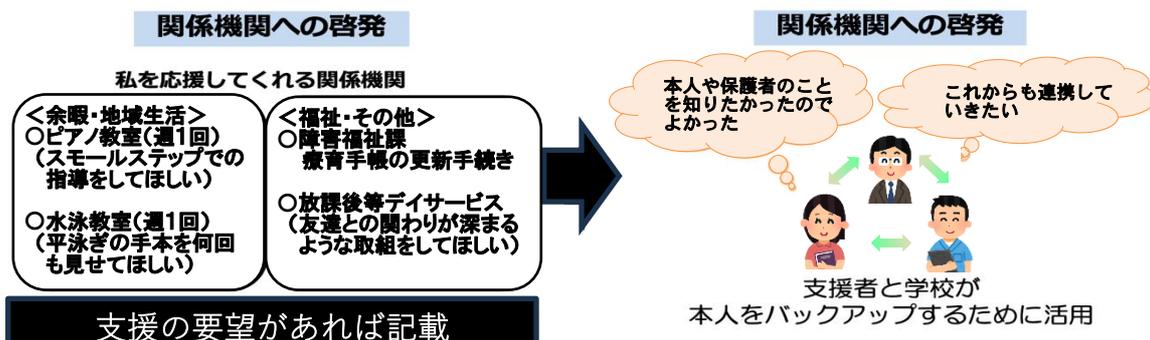
図 11：移行支援計画の様式

◆関係機関への啓発

水泳教室やピアノ教室、放課後等デイサービス、相談支援事業所等、支援機関や福祉サービス機関へ「私の応援計画」を本人・保護者が持参する（相談支援事業所への持参はR6年度から実施）。本人・保護者から関係機関へ支援等の要望があれば記載する。関係機関の利用状況を基にしたり、必要に応じて話合いや情報交換の機会を設定したりして、評価の内容を本人・保護者にフィードバックすることで、「私の応援計画」を関係機関と学校で本人をバックアップしていくためのツールとする。

<参考> 令和5年度本人・保護者が「私の応援計画」を持参した関係機関 *はR6の予定

放課後等デイサービス：23箇所 習い事等：13箇所 医療関係等：2箇所 相談支援事業所*：13箇所



(5) 「私の応援計画」の活用～授業づくりとキャリア・パスポート～

授業づくりへの結び付けやキャリア・パスポートとして、次のように活用する。

◆授業づくり

本校では、令和元年度から生涯にわたり学び続ける力とも言うべき「生涯学習力」の育成に焦点を当てて実践研究を推進してきた。その実践研究の中で、「生涯学習力」に関わるモデルとして「わかはとモデル」を定義付け、実践を継続している。そこで、「私の応援計画」と「わかはとモデル」を結び付けた授業づくりの一連の流れを「わかはとシステム」として構築した。この「わかはとシステム」を駆動させながら授業づくりにあたる全体像が図12のとおりである。詳細は、P19～に記載する。

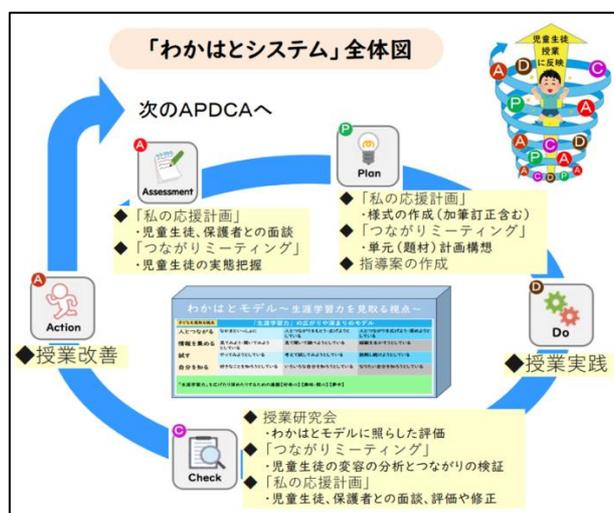


図12: 「わかはとシステム」全体像

◆キャリア・パスポート

平成28年12月に中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」の中の、特別活動ワーキンググループにおいて、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材(「キャリア・パスポート」)を作成し、活用することが効果的ではないかとの提案がなされた。

また、独立行政法人国立特別支援教育研究所「特別教育支援リーフ vol.14」では、キャリア・パスポートを『子供が自分の学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりすることを通して、「これまでの自分の成長や変容」「今の願いや思い」と「将来」とを繋いでいくことをねらいとした教材』と示している。

以上のことから、これまで過年度の「私の応援計画」は教師側が保管しており、児童生徒は、その年度の応援計画を日々目にするようになっていた。そこで、「私の応援計画」を単年ごとの取組ではなく、児童生徒が学びや成長の積み重ねが分かるものとしたり、児童生徒がいつでも手に取って自分の学びを振り返ったり、将来のなりたい自分の姿を考えたりできるよう過年度の「私の応援計画」をファイルに綴じ、教室の中に配置していくこととする。ファイルに閉じ込むシートは、小学部は「思えばいいシート」と「好きなこと・やってみたいことシート」、中学部は「ゆめシート」と「やってみたいこと・がんばることシート」、高等部は「私の応援計画(生徒版)」とする。また、「私の応援計画」を閉じ込むファイルをこれまでの学びを振り返り、今後の自分に向けての道標となるよう、「学びの道標」と名付ける。



3 「私の応援計画」と「わかはとモデル」

(1) 「生涯学習力」について

平成29年4月に文部科学大臣メッセージ「特別支援教育の生涯学習化に向けて」が発出され、障害者の生涯に通じた多様な学習活動を支援するための取組が開始された。平成31年の学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議報告「障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―」では、学校教育における学びと学校卒業後の学びを接続し、生涯にわたって学び続けられるようにすることの重要性や、学校教育から卒業後の学びに円滑に移行するために、個別の教育支援計画活用の仕組みを強化する必要性などが述べられている。

本校では、個別の教育支援計画「私の応援計画」作成のために児童生徒と教師が面談を行い、その対話を通して、児童生徒が夢ややりたいことを教師に伝え、それを実現するためにはどうすればよいかを考えられるようになった。児童生徒自身が学びの主体であることを自覚し、何を学びたいか自分の意思を表現できるようになったことは、生涯にわたって成長し続けるための力を育むための素地になると思われる。

以上のことから、本校における個別の教育支援計画「私の応援計画」の活用が、生涯にわたる学びのためのツールになる可能性があると考えた。

また、本校では生涯にわたって成長し続ける力について「生涯学習力」と命名し、以下のように定義付けた。

「生涯学習力」

主体的にヒト・モノ・コトに関わり、

生涯にわたって学びに向かい成長しようとする力



(2) 「わかはとモデル」について

令和4年度は、「生涯学習力」を高めるための授業実践に焦点を当てて取り組み、授業づくりの視点として「生涯学習力」を高めるための要素となる「わかはとモデル」を作成した。しかし、児童生徒の姿を段階的に捉えることが難しいこと、また「わかはとモデル」を直接授業に落とし込むのではなく、児童生徒の姿を大切にしたい見取りに生かすべきであるという課題が挙げられた。そこで、令和5年度は、「生涯学習力」を高めるための要素として作成した「わかはとモデル」を『「生涯学習力」を見取る視点』として児童生徒の実態把握や生涯学習力の高まりを見取る際に活用した。

令和5年度に活用した『「生涯学習力」を見取る視点』である「わかはとモデル」は、以下の表のとおりである。

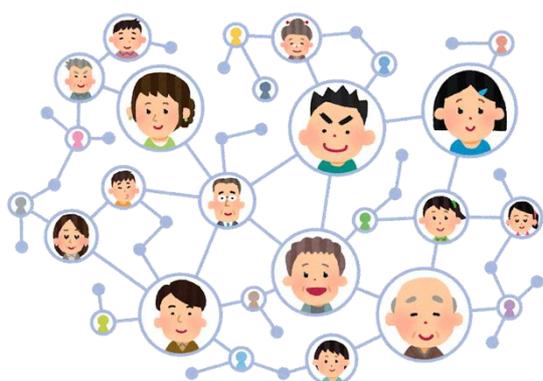


わかはとモデル

～「生涯学習力」を見取る視点～

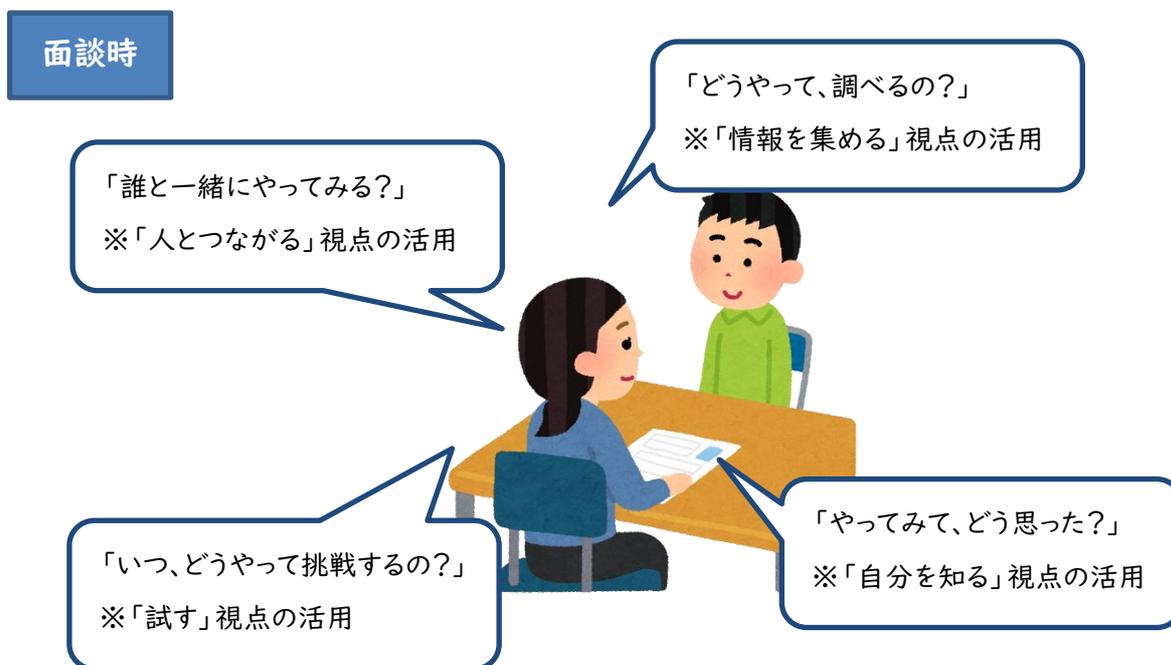
子どもを見取る視点		「生涯学習力」の広がりや深まりのモデル	
人とつながる	なかまといっしょに	人とつながりをもとう・広げようとしている	人とつながりを広げよう・深めようとしている
情報を集める	見てみよう・聞いてみようとしている	見て聞いて調べようとしている	経験を生かそうとしている
試す	やってみようとしている	考えて試してみようとしている	挑戦し続けようとしている
自分を知る	好きなことを知ろうとしている	いろいろな自分を知ろうとしている	なりたい自分を知ろうとしている

「生涯学習力」を広げたり深めたりするための基盤 【好奇心】【興味・関心】【夢中】



(3) 「私の応援計画」と「わかはとシステム」について

「わかはとモデル」の4つの視点である「人とつながる」「情報を集める」「試す」「自分を知る」、基盤となる3つの視点である「好奇心」「興味・関心」「夢中」を「私の応援計画」の面談、分析時に教師が活用する。

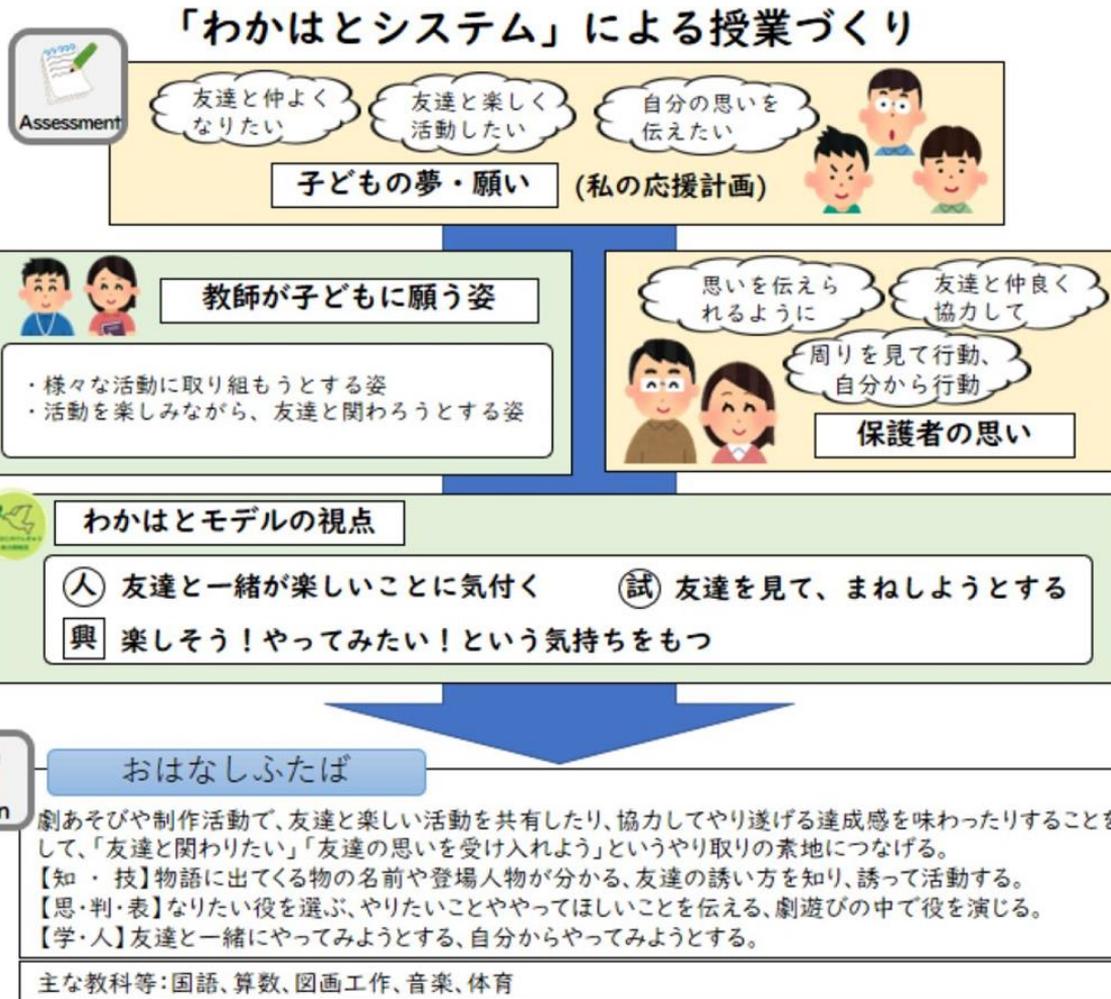


分析時

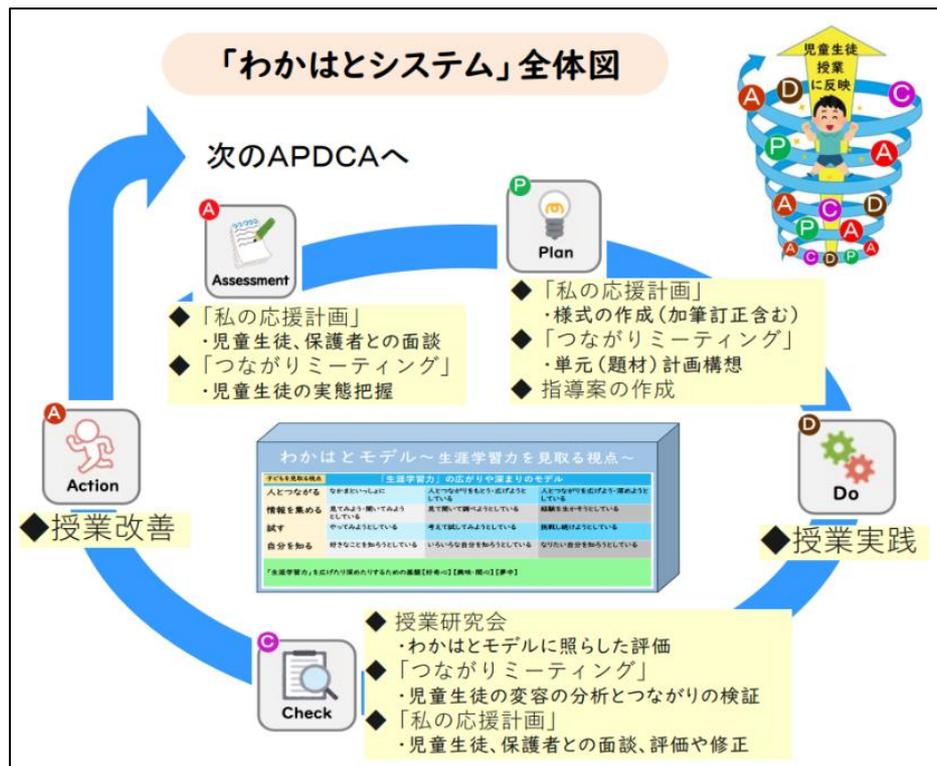
私の応援計画 (高等部生徒用)		名前
目指す姿 <働く> ・接客・清掃 自 試 ・ビルメンの仕事	将来のために学内外に生活で取り組むこと ・全部の目標でしごとを取りたい。(サーボス社) ・通学・清掃、後輩に教える。 ・ショートや、ドリアルの練習を頑張る。 ・強化チームの練習	【前期評価】 【後期評価】
<暮らす> ・家のまわりの清掃しごとを知る (両親と一緒に行きたくて) ・料理・1人暮らし ・手紙(貰いたい) 自 人	将来のために社会生活で取り組むこと ・アルバイトで働く。 ・職場の人とよい関係を築けるようにコミュニケーションを取る。	【前期評価】 【後期評価】
<楽しむ> ・(友達と)映画を見たい 人 ・服を買いたい 興	将来のために学内外に生活で取り組むこと ・趣味の分野で活躍したい。 ・料理の勉強をする。 (休日の昼ご飯を作る)	【前期評価】 【後期評価】

- 人**「人とつながる」 **情**「情報を集める」 **試**「試す」 **自**「自分を知る」
好「好奇心」 **興**「興味・関心」 **夢**「夢中」

さらに、学習指導案に次項のような形で「私の応援計画」と「わかはとモデル」の関係性を示した。



※「わかはとシステム」とは、常に児童生徒の夢や願いを基点とし、子どもと授業をつなげ、「生涯学習力」の育成を目指すとともに、APDCAサイクルで検証し、改善していくものである。



おわりに

本作成ガイドの改訂に当たり、本人主体の個別の教育支援計画（私の応援計画）を作成、活用する上でのポイントや期待される効果をこれまで記してきました。「私の応援計画」は、「対話」することが大事な要素と言えます。自分や他者との対話を通すことによる、それぞれの「在り様」の変化にも期待できるものと考えています。

主だった期待できる「在り様」の変化について、以下に示します。

～本人～

- ・自分の好きなことや興味のあることが分かる。また、友達の好きも知ることができる。
- ・自分の「思い」や「夢」、「なりたい姿」について考えたり、考えようとしたりする。
- ・「夢」や「なりたい姿」を達成するための道筋やがんばることを考え、行動する機会を作ろうとする。
- ・目標を達成する喜びを味わい、次の目標に向かって行動しようとする。また、目標が達成できなかった場合に、その原因や解決するための行動を考え、実践しようとする。
- ・自分の「思い」や「願い」を表出してよいということを実感する。

～保護者～

- ・子どもが「何に興味」をもち「どのような思いや願い」を抱いているのか、教師や関係機関と一緒に推察したり、知ったりたりすることができ、もっと知りたいと考えようとする。
- ・子どもが将来「どうなりたいか」「どうありたいか」ということを子どもと一緒に考えようとする。

～関係機関～

- ・子どもたちの「思い」や「願い」を知り、必要な支援を考えようとする。また、学校や家庭とつながりをもった支援を構築しようとする。
- ・日頃から子どもたちとの対話を大切にしようとする。

～教師～

- ・児童生徒を主体と捉え、その「思い」や「願い」を踏まえた授業づくりを展開しようとする。
- ・児童生徒の「思い」を引き出したり、考えを深めたりできるような問い掛けや関わりをしようとする。
- ・日頃から児童生徒の「思い」や内面の動きなどを聞こうとしたり、見ようとしたり、感じ取ったり、受け取ったりしようとする。

「私の応援計画」の作成や活用が形骸化されずに、本作成ガイドが「私の応援計画」の本来の意義や意味に立ち返る一助となることを願います。また、今後も児童生徒が自分の「夢」や「思い」を語り、「なりたい自分」に向けて歩むことができる風土を学校全体で築いていければと考えます。

<参考・引用文献>

- (1) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「ひと・地域・未来をつなぐ」研究紀要第41・42・43集, 2015・2016・2017
- (2) 新井英靖(2013)「こどもの内面の成長を促す授業づくりの方法」秋田大学教育文化学部附属特別支援学校公開研究協議会講演資料
- (3) 国立特別支援教育総合研究所(2010)「特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック」ジヤース教育新社
- (4) 障害者施策推進本部(2002)「障害者基本計画重点施策実施5か年計画」
- (5) 社会福祉法人東京都社会福祉協議会(2008)「知的障害者就労支援研究報告書」(福祉, 教育, 労働の連携による知的障害者の就業・生活支援～連携性のあるチーム支援モデルの提案～)
- (6) スティーブ・ホルバーン ピーター・M・ピーツェ(2005)「PCP(本人を中心に据えた計画づくり) - 研究, 実践, 将来の方向性 - 上巻」. 相川書房
- (7) スティーブ・ホルバーン ピーター・M・ピーツェ(2007)「PCP(本人を中心に据えた計画づくり) - 研究, 実践, 将来の方向性 - 下巻」. 相川書房
- (8) 内閣府(2002)「障害者基本計画」
- (9) 西村修一(2015)「教育における合理的配慮の考え方の課題と合理的配慮決定のプロセス」
- (10) 花熊暁(2014)「進まぬ, 個別の教育支援計画に迫る」特別支援教育研究2
- (11) 藤井慶博(2016)「個別の教育支援計画の作成と活用に関する現状と今後の方策～特別支援学校教員に対する質問紙調査から～」秋田大学教育文化学部紀要
- (12) 古井克憲(2010)「知的障害者に対するパーソン・センタード・プランニングの実践～特別支援教育や障害者地域生活における『本人を中心に据えた計画づくり』を目指して～」和歌山大学教育学部紀要 教育科学 第60集
- (13) 文部科学省(2003)「今後の特別支援教育の在り方について〈最終報告〉」
- (14) 文部科学省(2012)「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進〈報告〉」
- (15) 文部科学省(2016)「教育課程企画特別部会 論点整理」
- (16) 文部科学省(2016)「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について
- (17) 文部科学省(2008)「幼稚園教育要領」
- (18) 文部科学省(2008)「小学校学習指導要領」
- (19) 文部科学省(2008)「中学校学習指導要領」
- (20) 文部科学省(2009)「高等学校学習指導要領」
- (21) 文部科学省(2009)「特別支援学校幼稚部教育要領」
- (22) 文部科学省(2009)「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」
- (23) 文部科学省(2009)「特別支援学校高等部学習指導要領」
- (24) 文部科学省(2017)「特別支援学校幼稚部教育要領」
- (25) 文部科学省(2017)「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」
- (26) 文部科学省(2017)「特別支援学校学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)」
- (27) 文部科学省(2017)「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)」
- (28) 宮崎英憲ら(2017)「学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校」明治図書
- (29) 渡辺三枝子(2013)「『今』と『つなぐ』はキャリア教育のキーワード」特別支援教育研究46
- (30) 渡辺三枝子(2013)「キャリア教育の理念と特別支援教育における今後の展望」発達障害研究 第35巻第4号

表紙絵「あきらめるな！～大人の階段をのぼる僕たち～」

令和3年度 高等部卒業 船木幸将 (中学部2年次の作品)

<制作当時のコメント>

社会人になるには、いろいろな勉強をしなければいけません。先生方や家族など、たくさんの人たちが「がんばって」と応援してくれます。だから、僕たちは、大人への扉を開けるまで「あきらめないで頑張ります」という気持ちで描きました。

題 字「私の応援計画」

平成30年度 高等部卒業 伊東香澄 (高等部1年次の書字)

発行年月 令和7年3月

発行所 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校

〒010-0904 秋田市保戸野原の町 7-75

電話 018(862)8583

FAX 018(862)8525

ホームページアドレス <http://www.sh.akita-u.ac.jp>

メールアドレス fuyo@sh.akita-u.ac.jp

ホームページ QRコード ⇨



